



# 可搬型膜厚プロフィール測定装置 (Line-FiDiCa)

手軽に持ち運ぶことができる膜厚プロフィール測定装置をご紹介します。

点ではなく線で膜厚を測定することにより、膜厚の分布を詳細に観測することが可能です

## ● 約140mmの線状領域の膜厚分布を1320点測定可能

ハイパースペクトルカメラを使用した測定で、空間軸方向の画素数は1320画素と多いため、従来では考えられないほどに高精細な膜厚の分布を観測することが可能になります。点測定の膜厚計では読み飛ばしていた微小な膜厚変動を見逃さずに測定するため、突発的な膜厚変化を見つけられるだけでなく、その変化が発生した個所まで見つけ出すことも可能になります。



- 同時多点分光
- 高速膜厚計算
- 小型・軽量

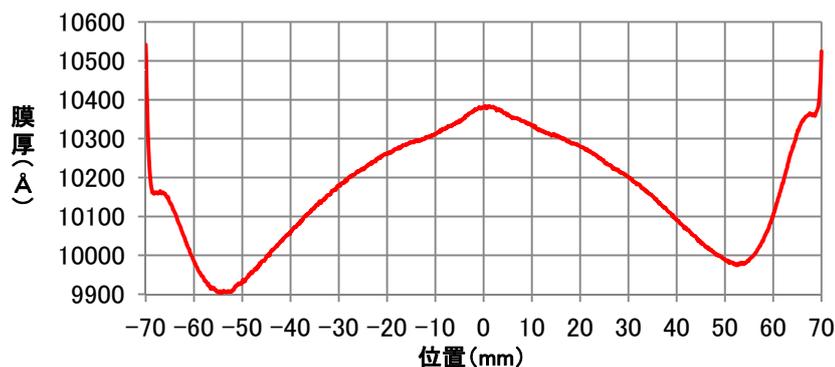
### 測定対象例

- ・ シリコンウエハ上の酸化膜や窒化膜
- ・ ガラス面上のレジスト膜
- ・ PETフィルム上の機能膜
- ・ フィルムの素材厚
- ・ 金属面上の膜

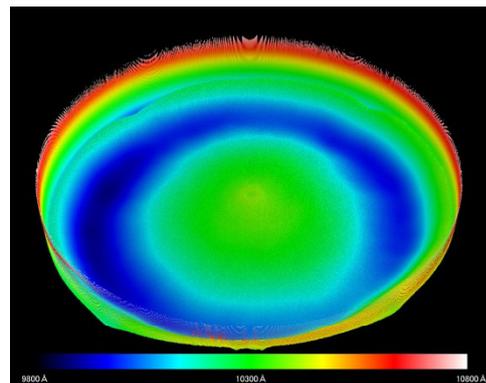
## 膜厚プロフィールを連続的に表示

### ● 計算された膜厚値を連続的にグラフ表示

1320点の膜厚値をグラフに連続表示することにより、膜厚プロフィールの作る表情を見ることができます。



測定例 SOIウエハの中心亨1ライン上の膜厚プロフィール

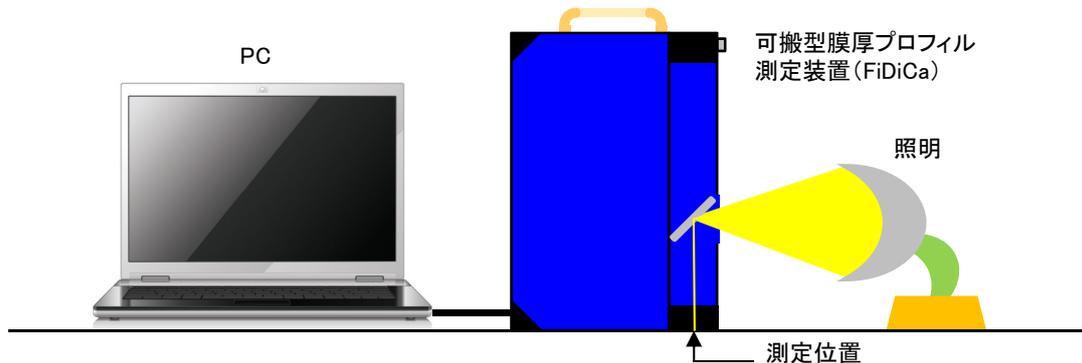


スキャン機構 (オプション) の追加により「線」から「面」へ

## 専用のライン照明を必要とせず、市販のハロゲンランプを照明窓に照射するだけ

### ● 専用の照明を必要としません

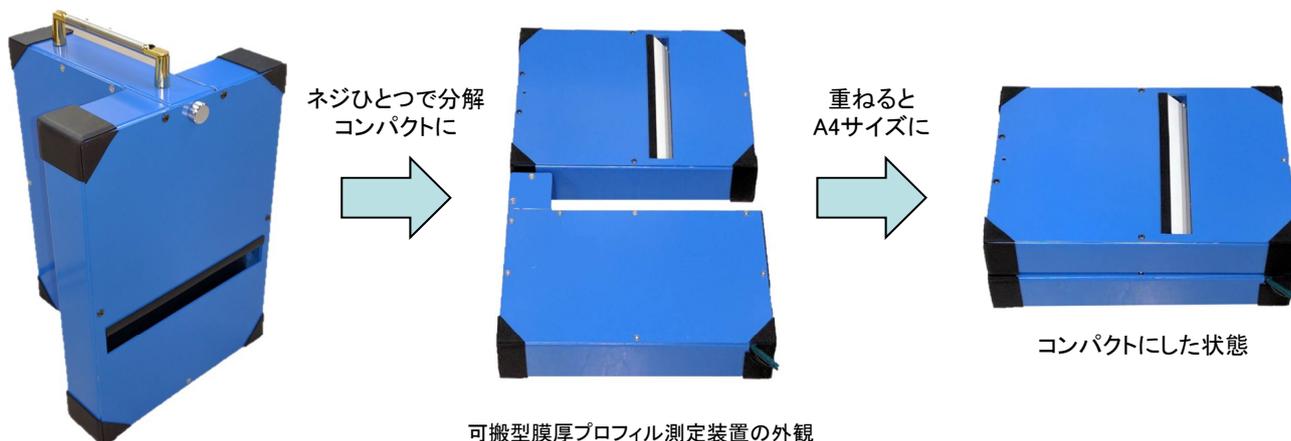
ハイパースペクトルカメラでは、通常、ライン照明を用いますが、本装置は照明窓を設けて窓内の拡散板で光を拡散させるため、ライン照明を必要としません。



## 小型軽量 分解するとコンパクトなA4サイズに

### ● 小型で軽量の装置のため簡単に持ち運びが可能

軽量なため、持ち運びが楽で、どこでも測定できます。またネジひとつで分解できるため、さらに小型にして持ち運ぶことも可能です。



可搬型膜厚プロフィール測定装置の外観

## 仕様

型式	FDC-1000L
膜厚レンジ	0.05 $\mu\text{m}$ ~ 30 $\mu\text{m}$
分光器	イメージング分光器 <i>ImSpector</i> (インスペクター) V10H
測定視野幅	140mm
測定点数	1320点
空間分解能	106 $\mu\text{m}$ / 画素
測定時間	約1~10秒(測定条件により異なります)
膜厚分解能	1nm(対象物の膜厚ムラの状況によっては1Åも可)
膜厚測定精度	±1%または±5nmの大きい方
測定再現性	0.5%以下
寸法	使用時: W200 × D200 × H300mm 分解時: W200 × D100 × H300mm



JFE テクノリサーチ 株式会社

<http://www.jfe-tec.co.jp>

☎ 0120-643-777

Copyright ©2016 JFE Techno-Research Corporation. All Rights Reserved.  
本資料の無断複製・転載・webサイトへのアップロード等はおやめ下さい。